

→ 学部長メッセージ

## 学習院大学がいま、 国際社会科学部を設置する その意義とは？

国際社会科学部 学部長  
末廣 昭



### 国際社会のビジネス現場で役立つ英語力と、 課題解決力を育む

昨今、現代社会が直面する課題は、グローバルな視点から考えることが重要となっています。また、日本においては海外からの観光客が年々増加し、国内における国際化の重要性も急速に高まってきました。学習院大学が企業に対して実施したアンケート調査によりますと、いまや英語ができるだけの人材に対するニーズは低く、語学力に加え、世界が直面している課題を発見し、解決できる能力をもった人材が求められていることが分かりました。

そこで、「人の国際化」に対応し、語学力にとどまらず、さまざまな問題を分析できる人材の育成を目指し新設されたのが国際社会科学部です。この学部では、従来の国際系学部のように文化理解に重点を置くのではなく、国際ビジネス社会で活躍できる人材を輩出することを最大の目標に据えています。

具体的には、海外でのコミュニケーションに必須となる英語教育を重点的に実施するとともに、法律・経済・経営・地域研究・社会学といった社会科学の5分野を多面的に学びます。1年次では社会科学の講義は日本語で学びますが、年次を重ねるごとに英語の割合が増えていき、3年次では講義も演習も英語で履修します。4年次ではディベート、プレゼンテーション、卒業論文全てが英語となり、4年間のカリキュラムを通じて、国際ビジ

ネス社会で通用する人材を育成する体制を整えています。

英語の学習に際しては、学生は自分で課題や達成値を決め、目標を設定し、自分自身で進捗を管理する点も特徴です。ただひたすら学ぶのではなく、自分で自分を管理できる、そういう人間を育てることが私たちの目標の一つです。

また、卒業するためには、最低4週間以上の海外研修・留学が必須の要件です。国際社会のリアルな世界やビジネスの現場を、滞在と体験を通じて学ぶことは、英語力や課題解決力が身に着く大変よい機会だと考えます。

学生の皆さんがこれから海外で活躍する、あるいは国際化が進む日本国内の企業で活躍することは必然です。その時に備え、自分が持っている可能性を最大限に生かすうえで、国際社会科学部は絶好の学びの場になると確信しています。

### 社会科学的手法とともに、 精神的資質も育てたい

私が人生の先輩として、学生たちに大切にしてほしいこと。それは、旺盛な好奇心を常に持つこと。さまざまな課題や問題点を発見するには、周りのものに興味を持ち、思考していくことが大切です。社会科学的分析を行う前にまず、疑問を見つけ考えなければなりません。それには、多くのことに興味を持つ好奇心を大事にして欲しいと考えています。

二つめは、他者と協働する意味を考えること。協働するためには、相手とコミュニケーションできるだけでは十分ではありません。他者の気持ちを考え、喜怒哀楽に共感できる柔軟な感性を持つことが大切です。そして、三つめは、課題や問題を見つけるだけではなく、解決に向けてアクションを起こす“一歩前”に出る勇気です。課題や問題を見つけ、周りの人々を巻き込み協働し、解決に向けて一歩を踏み出す。国際ビジネス社会で活躍できるツールを学びながら、同時にそういった資質的な要素も育てたいと思います。



# 学習院大学 国際社会科学部 始動!!

世界規模の視点での行動が重要となっている現代社会。  
語学力はもちろん世界が直面している課題を発見し、  
解決できる能力をもった人材育成を目指して  
新たに新設されたのがこの国際社会科学部です。



GLIFE  
学習院広報  
第96号  
(2016年7月発行)  
より抜粋

# 国際社会科学部の授業・施設



Learning

## 「Academic Skills I」(英語)

高校英語を基礎とし、多様なテーマに関する学術的な文章を読み、理解し、議論する力を養います。また、様々な学術分野について、学術的な記述、論理的で根拠ある主張や回答、説明的な小論文等の的確に構成された段落を書くことを学びます。そして、自分や仲間が執筆した文章を論理的・客観的に評価します。これらを通し、2年次からの上級英語の授業や英語での社会科学の授業に必要な力を身に付け、将来のキャリアに備えます。



Learning

## 「マーケティング」(社会科学)

マーケティング分野の入門科目で、様々な企業の経営管理・経営戦略やマーケティングの基礎を学びます。授業では企業の事例を取り上げ、教員からの質問に対して学生が回答する討議形式をとっています。例えば、ある授業では「星野リゾート」のリゾートホテル再生事業のマーケティング課題について、教室全体で議論を行いました。教員の一方的な講義ではなく、学生に発言を求め、参加型の授業とすることで、主体的に学ぶ姿勢を身に付けます。



Learning

## 「海外研修 I」(事前準備)

本学部の学びの中で、必修となっている海外研修の理解を深め、モチベーションを高めるとともに、自分にとって、どのような海外研修が適切であるかを考え、実行するための計画を立てます。また、基本的な海外研修への予備知識として、海外の大学の授業内容や形態、手続き、海外での生活様式への対応方法、危機管理、コミュニティ活動や課外活動の可能性等を学びます。自ら積極的に行動する態度を育成する為に、チームに分かれて、討論や発表を行います。



Learning

## 「入門演習 I」(演習)

少人数で社会科学の考え方や基本的な方法論を実践的に学ぶ授業です。担当教員の指導の下、3~4人のグループに分かれ、関心のある問題を設定して資料やデータを収集・検討し、議論を重ねてレポートを作成します。また、作成中のレポートについて口頭発表を行い、レポートの作成方法だけでなく発表の仕方についても学びます。学生の主体的な参加が求められます。



Campus Life

## 英語自習室

本学部では、学生全員がノートパソコンを使って学習を行います。学部内にはWi-Fi環境が整備されていますが、この英語自習室ではウェブカメラやヘッドセットなども用意されており、海外研修で出会った仲間とのSkypeでのコミュニケーションや、ネットワーク経由での英会話学習などを自由に行うことができます。席は全てブースで区切られており、集中して学習できる環境が整っています。



Campus Life

## コミュニケーションルーム

グループ討論やグループ学習に適した多目的のルームです。グローバルビジネスではプレゼンテーション能力が大きなスキルとなるため、その練習に欠かせない最新のインタラクティブ電子黒板システムを用意。また27型のディスプレイも2台備えてあり、持ち込んだPCを繋いで、グループで画面を共有しながらの学習が可能です。学生同士で、知識の蓄積にとどまらない「人に伝える力」・「世界に発信する力」を養うことができます。



## 新入生メッセージ Message of the Freshman



将来の夢へ向けて  
よりアカデミックな英語能力を伸ばしたい

国際社会科学科 1年生 鈴木 三咲さん

英語だけでなく、社会科学も身につけたいと入学を決めました。英語と経済をともに学べるのは、国際社会科学科のほかにはない強みです。第一期生であることも魅力的でした。実際に入学してみると、一方的に「与えられる授業」ではなく、学生が発言する機会も多く、よい意味で気が抜けません。将来は、USCPA(米国公認会計士)の資格取得や航空会社での勤務を目指しています。在学中は長期留学などで、よりアカデミックな英語能力を伸ばしていきたいです。

高いレベルの環境を生かして  
世界へ発信出来る人になる

国際社会科学科 1年生 兼子 馨太郎さん

グローバル社会での活躍を目指し、国際社会科学科を選びました。授業で英語を使う機会が多いため、英語力の向上を日々実感しています。またこの学部では、実体経済に基づいた幅広い学問を学べ、授業にやりがいを感じています。専門分野に強いI字型人材にとどまることなく、幅広い知見を持つT字型人材になるべく、学部特有の恵まれたリソース(先生・施設・仲間など)を大いに活用していきたいと思っています。4年間の学びを根幹に、将来は日本のアイデンティティを持ち、世界の舞台で活躍していきたいです。



## 4週間以上の海外研修を経験

### 14カ国・地域 61校の海外研修先

語学力向上と多様性の理解、異文化の環境で順応する力を身につけるため、4週間以上の海外研修に参加することを卒業要件としています。自ら探した研修先を含め、目的に応じた多様な選択肢を準備しています。「自ら考え行動する力」を養成するため、必修の事前・事後教育科目を開設し、研修参加前のカウンセリングを必須とするなど、一人ひとりが納得して研修に参加できるようサポートしています。

